

発行日：平成13年3月21日
発行者：医学部医学科広報委員会
印 刷：やまと印刷株式会社

医学部ウォーカー

1面：教員任期制度
2面：追悼 鈴木宗平教授
3面：シリーズ新中央診療棟
4～5面：特集 各賞受賞
6面：研究室紹介 解剖学第一講座
7面：定員削減の見通し
8面：魅力ある医学部へのアイデア統編
題字 医学部長 遠藤正彦氏筆

インセンティブ研究助成金の交付決定

生化学第二、内科学第一、内科学第三、神経精神医学
細菌学、眼科学講座が選ばれる

平成十二年度、文部科学省より配分された「研究協力推進・インセンティブ経費」の交付先が平成十三年二月二十一日の医学科会議において承認された。

インセンティブ研究助成の審査は医学部・附属病院自己評価委員会にて実施された。平成七・八・九年の自己評価実績に基づき四講座、生化学第二、内科学第一、内科学第三、神経精神医学へこの助成金が配分された。その他にも、「小規模ながら輝く研究」と称する領域を設け、公募を行い、過去二年間の実績を評価した。その結果、細菌学講座と眼科学講座への配分が決定された。

今回は研究助成の通知から配分決定まで、あまりに時間が短かった。したがって、以後、研究助成を受ける講

(新川 記)

教員任期制度始まる



多数の参加者のあった任期制説明会

教員任期制度検討委員
藏田潔
(生理学第二講座教授)

四年間にわたり検討が重ねられてきた医学部の教員任期制度が、全学評議員会での承認を受けて、いよいよ新年度開始とともに実施されることになった。実施するに際し、去る一月十八日に臨床大講堂にて説明会が開かれた。実施にあたり、

全教官へは、四月一日、現職から任期付ポストへ配置換るための同意書や、医学部における制度の特色である任期満了までの努力目標設定などの様式が配布され、すでに一月三十一日に締め切られており、同意書の提出率は約九〇%となっている。任期は教授十年、助教授・講師七年、助手五年であるが、この制度の目標とする医学部の活性化や人事の流動化が実現される

ことを大いに期待する。

平成十二年度の前期日程の当医学部の入学者選抜学力試験は、全国最高倍率の一〇三倍であった。この原因は

医学部志願者にとって当医学部が一面組みしやすい大学と映っていたからとも見受けられる。この結果、予備校等の示す当医学部の偏差等のデータは急上昇し、

結果としてかなり優秀な学

生が入学したのは事実である。

しかし、本年十三年度の入

学者選抜試験は医学部志願者が敬遠し、更に全国最大

規模の学士編入学の実施に

も前から毎年南北海道から北東北の普通高等学校を丹念に廻り、当医学部のPRと受験生の掘り起こしを進めてきた。それが功を奏してきました。それが功を奏してきたのかも知れない。結果として今までほとんど志願者としては稀であった高

等学校からの入学者が漸増してきた。また、本年の入

学者選抜試験の面接試験で、当医学部を受験した理由を

問われた受験生が「予備校の中でも何でもかまいません。しかし、前回と同様に、

としては初の全教官を対象とした教員任期制を導入し

た。このことは新聞の全国

今、医学科には大きな意識の変革が起こっている。

当医学科の将来に危機感を有する九〇%もの教官が教員任期制に同意し、四月一日から移行する。多くの大

学生が先発弘前大学医学部の数値に驚いています。本誌医学部ウォーカーが募集

した「魅力ある弘前大学医学部へのアイデア募集」には、多数の教官、学生が応募し真摯な意見が寄せられた。

志願者の倍率の件は一時のことであろう。当医学部は全国区の大学であると同時に、地元に密着した大学でなければならぬ。我々は生き残りをかけた更なる改革に向かわなければならない。

寄稿

外部の人は当医学部医学科をどう見ているか

医学部長 遠藤正彦

誌で全国に報道され、そして十を越える大学より照会がきている。二度に渡る外

部評価も他大学とは異なる

ユニークなシステムで実施した。これにも照会が多い。

文部省校費(教育研究基盤校費)に関しては、自己点検評価を基に実績を反映させた。

予備校等外部の人達の中に

はこう見ている人達がいる。

この話はうそでも嬉しい。

当医学部は、この大学改

革の中で様々な改革を進め

てきた。それも「他より早く、

そして他でやらないことを」を

合言葉に進めてきた。入学

者選抜試験においても、他にはないシステム、二段階

面接を行っている。三年次

学士編入学も、姑息的な数

としてその先にはつきりと

メディア・スクールへの転

換を据え、いち早く手をあ

げた。また国立大学医学部

としては初の全教官を対象とした教員任期制を導入し

た。このことは新聞の全国

今、医学科には大きな意識の変革が起こっている。

当医学科の将来に危機感を

有する九〇%もの教官が教員任期制に同意し、四月一

日から移行する。多くの大

学生が先発弘前大学医学部

の数値に驚いている。本

誌医学部ウォーカーが募集

した「魅力ある弘前大学医学部へのアイデア募集」には、

数こそ多くはないが、

当医学科を真剣に考える姿

が読み取れた。

志願者の倍率の件は一時

のことであろう。当医学部は

全国区の大学であると同時に、

地元に密着した大学でなければ

ならぬ。我々は生き

残りをかけた更なる改革に向かわなければならない。

遠藤正彦氏筆

題字 医学部長 遠藤正彦氏筆

1面：教員任期制度

2面：追悼 鈴木宗平教授

3面：シリーズ新中央診療棟

4～5面：特集 各賞受賞

6面：研究室紹介 解剖学第一講座

7面：定員削減の見通し

8面：魅力ある医学部へのアイデア統編

題字 医学部長 遠藤正彦氏筆

1面：教員任期制度

2面：追悼 鈴木宗平教授

3面：シリーズ新中央診療棟

4～5面：特集 各賞受賞

6面：研究室紹介 解剖学第一講座

7面：定員削減の見通し

8面：魅力ある医学部へのアイデア統編

題字 医学部長 遠藤正彦氏筆

第十八回唐牛記念 医学研究基金助成金

第十八回唐牛記念医学研究基金助成金授賞式が、一月十九日医学部大會議室で行われた。助成の対象となつた研究課題は以下の四件。

膜容量測定法を用いた胰島組織におけるインスリン分泌調節機構の解明

生理学第一講座 菅野 隆浩



みちのく銀行原田頭取による挨拶

糖尿病に対しより効果的な治療を行うために、細胞生物学的研究に基づく情報の蓄積が重要です。特にこれまでとは違った切り口での研究が求められます。分泌顆粒が細胞膜に融合することによって起る膜容量增加をパッチクランプ法により測定する方法がありますが、それをインスリン分泌(β 細胞に適用したのは世界でもごく限られた研究者だけであり、しかも単離された細胞においてのみです。私はスウェーデンのルンド大学において胰島組織内の細胞へパッチクランプ法を適用する貴重な経験をすることができ、組織内の β 細胞では、細胞内cAMPの上昇によって分泌機能が単離した細胞に比してより亢進していることを明らかにしてきました。経口糖尿病であるスルホニルウレア

糖尿病に対しより効果的な治療を行うために、細胞生物学的研究に基づく情報の蓄積が重要です。特にこれまでとは違った切り口での研究が求められます。分泌顆粒が細胞膜に融合することによって起る膜容量增加をパッチクランプ法により測定する方法がありますが、それをインスリン分泌(β 細胞に適用したのは世界でもごく限られた研究者だけであり、しかも単離された細胞においてのみです。私はスウェーデンのルンド大学において胰島組織内の細胞へパッチクランプ法を適用する貴重な経験をすることができ、組織内の β 細胞では、細胞内cAMPの上昇によって分泌機能が単離した細胞に比してより亢進していることを明らかにしてきました。経口糖尿病であるスルホニルウレア

糖尿病に対しより効果的な治療を行うために、細胞生物学的研究に基づく情報の蓄積が重要です。特にこれまでとは違った切り口での研究が求められます。分泌顆粒が細胞膜に融合することによって起る膜容量增加をパッチクランプ法により測定する方法がありますが、それをインスリン分泌(β 細胞に適用したのは世界でもごく限られた研究者だけであり、しかも単離された細胞においてのみです。私はスウェーデンのルンド大学において胰島組織内の細胞へパッチクランプ法を適用する貴重な経験をすることができ、組織内の β 細胞では、細胞内cAMPの上昇によって分泌機能が単離した細胞に比してより亢進していることを明らかにしてきました。経口糖尿病であるスルホニルウレア



受賞の方々
左より横山、菅野、兼子、石坂の各氏

アセチルコリン系伝達機能調整が中枢神経系内神経伝達系機能へ与える影響 —新たなアルツハイマー型治療薬開発への試み—

神経精神医学講座 兼子 直

この度第十九回唐牛記念医学研究基金の助成金Bを頂くことになり、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。第十四回の助成金Bも頂いており、二回目の受賞となりました。今後は助成金の規約改正により、助成金Bを二度受賞することはできなくなるとのことで、最後の二度目の受賞となりほそ笑んでいる次第です。

第二生化教室の土田教授のグループが、carbonyl reductase (CR) の発現低下がマウス肺癌細胞の転移能を亢進させる研究成果をCancer Researchに発表されました。CRは prostaglandin 9-ketoreductase活性を有し、プロスタグランデイン (PG) E₂を特異的に不活性化します。PGE₂はアポトーシスを抑制したり血管新生を誘導したりして腫瘍の進展に重要な役割を果たすことが明らかにされつつあります。そこで、カリウム (K_{ATP}) チャネルとアポトーシス関連遺伝子と血管新生因子をからませるために、病態モデルから摘出された心臓を灌流して研究を行ふことにしています。高血流量調節に対する研究を行ふことを目的としていた心臓を灌流して研究を行ふことにしています。高血流量調節に対する研究を行ふことを目的としている佐藤助教授に感謝の意を表します。

この度第十九回唐牛記念医学研究基金の助成金Bを頂くことになり、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。第十四回の助成金Bも頂いており、二回目の受賞となりました。今後は助成金の規約改正により、助成金Bを二度受賞することはできなくなるとのことで、最後の二度目の受賞となりほそ笑んでいる次第です。

第二生化教室の土田教授のグループが、carbonyl reductase (CR) の発現低下がマウス肺癌細胞の転移能を亢進させる研究成果をCancer Researchに発表されました。CRは prostaglandin 9-ketoreductase活性を有し、プロスタグランデイン (PG) E₂を特異的に不活性化します。PGE₂はアポトーシスを抑制したり血管新生を誘導したりして腫瘍の進展に重要な役割を果たすことが明らかにされつつあります。そこで、カリウム (K_{ATP}) チャネルとアポトーシス関連遺伝子と血管新生因子をからませるために、病態モデルから摘出された心臓を灌流して研究を行ふことにしています。高血流量調節に対する研究を行ふことを目的としている佐藤助教授に感謝の意を表します。

プロスタグランデインE₂阻害剤を用いた卵巣癌細胞の増殖能抑制に関する研究

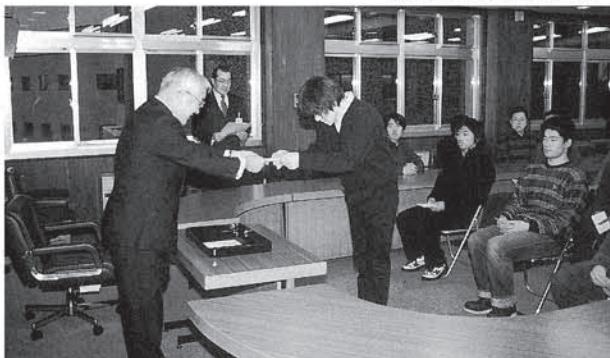
産科婦人科学講座 横山 良仁

A_TP感受性カリウムチャネルを介する代謝性冠血流調節に関する研究：高血圧、高血糖の病態による影響の検討

内科第二講座 石坂 浩

鵬桜医学振興会からの学生課外活動援助費

学務主任 鈴木 唯司
(泌尿器科学講座教授)



医学部大會議室で行われた授賞式

昨年度に統いて、鵬桜医学振興会から学友会に所属する諸サークルへ第二回目の課外活動援助費が総額一〇〇万円提供されることになりました。サークル全体で使用できる物品につき希望書を出していただきましたところ、九体育系サークル及び二文化系サークルより希望が提出されました。学務委員会においてこれまでの成績や物品の必要度を慎重に審査した結果、七体育系サークル及び二文化系サークルと予定より多くのサークルに援助することになりました。(援助額は一サークル九万円・二十万円)。そして平成十二年十二月十一日医学部大會議室において鵬桜医学振興会会長遠藤正彦医学部長より授与されました。

最近の国家試験の厳しさに伴い、五年生以後の特に体育系サークルでの活動は増え難くなりますが、勉強とサークル活動を両立させて、豊かな学生生活を送ることを願つてやみません。

なお、援助対象サークルはラグビー部、ソフトテニス部、剣道部、サッカー部、野球部、空手道部、スキー部、写真部、MCQです。

国立大学の第十次定員削減と医学部の対応

文部省(現 文部科学省)が昨年の九月、全国の国立大学を対象とした第十次定員削減計画を発表した。弘前大学では平成十三年度から十七年度の五年間で、教官二十二名、看護婦一名、事務官三十五名の計五十八名という大量の定員削減が割り当てられた。医学部の場合、事務職員については定年退職者が想定されるが、事務処理を含む各方

面へのサービスにあたえる影響が極めて大きい。また、教育官八名(医学部六名、附属病院二名)については、削減方法の問題とともに、

医学部では昨年の十月十八日、遠藤医学部長を委員長とし、原田病院長、菅原、正村、泉井の基礎系、棟方昭、鈴木唯、佐々木の臨床系各

から一ヶ月、第二回医学部特別展示会「弘前藩医松野史料展」が、図書館展示室で開催された。主催医学部図書委員会、共催医学部医師会である。この間、学内外また多くの一般の方々の参観を得た。弘前市民のみならず県内外の方のご住所を参観者記名簿にみると、出でた。史料を医学部図書館にご寄贈下さった松野家関係者も次々来館され、そして、語り合つた。

今回も史料解説をはじめ具体的展示に至るまで、図書委員でもある麻醉科学松木明知教授と同教室三上コウさんのご指導とご協力をいただきた。

そもそも、札幌にこの弘前藩医に關係した史料があることを聞いたのは、三年前

の発言であった。史料が到着し、その解説と意義等は雑誌「弘前医学」に松木明知著として補遺編とともにまとめられれた。これらの別刷は展示会場に置かれ、参観者に自

研究業績等の一層の向上が求められており、これまでの医学部の機能や、附属病院での患者サービスを維持・向上させて行くには、外部の力を導入せざるを得ないことも想定される。しかし、これには当然新たな財政的負担を伴うことになり、医学部ならびに附属病院について大変厳しい問題となる。

今後、各分野においては機構および教育制度の改革と

進めしていくことが確認されている。その結果、平成十

三年度は基礎系教官一名の削減が決まり、その後につ

いては最終的な検討が続いている。

この定員削減問題は、近く導入が予定されている国

委員会を取り組んでいる。これまでの委員会の検討で、各

年度毎に割り当てられた教官削減数を基礎系、臨床系

双方の調整により計画的に

進めいくことが確認され

ている。その結果、平成十

三年度は基礎系教官一名の削減が決まり、その後につ

いては最終的な検討が続い

ている。

この定員削減問題は、近く導入が予定されている国

委員会を取り組んでいる。これまでの委員会の検討で、各

年度毎に割り当てられた教官削減数を基礎系、臨床系

双方の調整により計画的に

進めいくことが確認され

ている。

魅力ある弘前大学医学部への アイデア受賞論文

前号で紙面の都合上、ご紹介しきれなかつた受賞論文を
ここに紹介します。



前大学医学部への
アマ募集中に応募いたします。
医学部生化学第一講座 高垣啓一

魁力ある弘前大学医学部を目指すためには、大学教育、研究、診療の質の向上が重要であります。そのためには、学生、教官、職員を含めた我々全員が大学生活（教育、研究、診療）全体に「緊張感」を持つべきと考えます。基礎系教官の一人として、そのうちの教育に焦点を絞ります。特に授業に関して、最近、授業の質を高める工夫として、シラバスの作製や学生による授業の評価などが次々と試みられており、その効果が上がりつつあります。これが更に充実させるには、教官個人、そして学生個人個人も緊張感を持って授業に参加することが重要だと思います。そのためには、個々人の努力が必要ですが、やはりその場（例ええば講義）に外部からの参加があれば、教官、学生双方にとってより緊張感が高まると思います。

を決めて討議に御察していただき、報告書として提出してもらいます。そして、これを参考に種々の改善改革の参考にできるものと思思います。また、第三者（学生の御父兄）の講義への参加により、教官自身の授業での緊張感ばかりでなく、学生自身の緊張感も期待で生きるものと思われます。さらには、遠く離れたところにおられる学生の御父兄にも、この様な機会を利用して、弘前大学医学部を宣伝でき、地元弘前に残ることに理解が得られやすくなるものと思われます。

学生の御父兄を招待し、そ
の学生の一日（講義、実習、
自習、昼食など）を第三者
として参加し、観察しても
らいます。講義する教官は
勿論、講義を受ける学生の
態度、講義室の環境、自修
室の環境等いくつかの項目

学生の部 佳作

医学科四年 大久保 愉



組織や病理の実習が自宅や学校のコンピュータ室でもできますし、復習が容易になります。先生方の診断法や見るべきポイントを盛り込んだコンテンツだとありがたいうえ、先生方にとつてもよくある初步的な質問に答える手間が省けて好都合かと思います。問題もついていれば勉強になります。

実際、横浜市大ではCDを配じさせることが出来るはざです。

ページをこまめに更新することで教官と学生の相互通じることで教官は学生の声を拾うこと日常を垣間見、講座の様子を感じることができますし、交流につながるでしょう。打ち合わせで学生は教官のからです。物を言いやすくなり霧開気が出来れば学内の活

学者には難しいのです。断面や動きをビジュアルな教材を使つて見せていただけたらと思います。コンピュータの活用で授業に動きが生まれて集中して聞けるのではないでしようか。

②実習の内容を配布してください。

数々の実習を受けてきましたが、聞きたいときに先生方がつかまらないことがよくありました。スタッフが多くはない基礎の教室にとつても実習は大きな負担と聞きます。そこでスライドの写真などをCD-ROMで配布するのはどうでしょう。

どうでしよう。内容の充実も業績をアピールする恰好の場が誕生します。多忙な先生方は渡りに船ではあります。多忙な先生方に「医学生／研修医募集」と広告すれば人材難も解消へ向かうかもしれません。外注よりも安いですし、制作希望者を募集すれば講座への関心が高まります。学生から見れば「何してるの?」といふ講座もありますから、研究内容を発信することで理解が深まります。専門教育をめぐら縁遠い低学年にも、本学が取り組んでいる医学を感

学生の部 佳作

医学科二年 西村修

いか、はつきり言つて学生性化が実現することになるでしょう。部活以外で学年で縦断的な組織ができれば、学生どうしの交流にもなります。知恵を出し合つてつくったページに意見がたくさん寄せられて、それを引きかしていく仕組みができるば素晴らしいことだと思います。

「ラインを8割、9割に引き上げて、ほとんどの学生を再試験にする。そうすると、やはり授業を落としたくなつた学生からすれば、死にものぐるいで勉強すると思う。2回めのテスト以降は、ボーダーを6割にして評価さればいいと思う。この方法で何が良いかと言うと、反復して勉強できるということである。普段から何も言わなくともできる人はいいが、やはりそんなのは毎日毎日、面倒でやつてられない。しかも、よくわかつていないので事だらけなので、何を覚えるなり考えるなりすればいい

学生の立場から見て、学生にどうしたら勉強させることができるかを考えた。卒直に言うと、テストのやり方を変えればいいと思う。まず、テストは2回以上行うことを普通のこととする。1回めのテストは、ボーダー

「目的Ⅰ」最近勉強をしなくなつたと言われる学生の学問に対する意識の改革へ方法Ⅰ自分自身の事を棚に上げて言うわけではないが、



医学科二年 西村修
にはわからないのである。

～目的Ⅱ～弘大医学部にと
いうやつて人を残すか。
～方法Ⅱ～どうすれば、弘
前にも残る人が増えるかを考
えた。やはり他の地域から
来た者にとって（自分もです）
地元に帰りたいと思うもの
である。それをどうすれば
断ち切れるかを考えた。そ
れには、人の“情”しかな
いと思う。あまりに抽象的
に書いたが、どういうこと

ればそれだけ良い大学にならう。最後に言つておきたいのが、ここに書いたことはすべて、学生には内緒で行わなければ意味がない。学生に本気でとり組ませるには先生の側も本気でやつてほしい。以上です。

いと思う。だから、多少、乱暴でもそういうやり方をした方がじょじょに物を考える知識が増えると思うし、ただ活字を読んで記憶するだけの勉強から逃れられると思う。そうして、弘大医

こういうことか』みたいに
思うことは、多々あること
である。だから、先生の側
も一回の授業で学生は覚え
るということは、ほとんど
考えてほしくない。それな
らば、テストなどで、ゴリ
押ししてでも勉強させた方
が実は、記憶は定着しやす

編集後記

あれば直接行くようになれば良いし、他の先生の所に行つてみようと思わせることがあるわけで、「情なるものがうつり、弘大に残るかもしれない。いや、残る人が増えるだろうと思う。注意しなければいけないのが、決して強制にはしないこと。何人かの先生を訪ねるようになること。(例えば、1人の先生に対しても5~6人とか)先生への連絡先を通知し、直接アポを取れるようになること。一応、学生の方には、「半年か1年間くらいを期限とする」というようなことを言つておいて、連絡をとらないからといって強制させることが無いようになる。今考えれる注意点は、これくらいだが、こういったやり方をすれば、もっとと学生と話したいと思つてゐる先生にとつても、また先生のところに行きた

○鈴木平先生が「くなつた」で鈴木先生の横に座り、話したことが昨日のことのように思い出される。個的な話をお許し願いたい。去年三月、横山先生の通話で鈴木先生との接点は「辛夷会」であった。第一外科の同会である辛夷会が植えた夷の木が、回り回つて太松の近くに移植された。黒松の一角を小公園化する時鈴木先生にお願いして、とともに小公園の準主木として植えられた。その辛夷の実から育てた生苗を鈴木先生にもらつていただいた。辛夷は隔年花の傾向がある。今年のはたくさんの純白の花をさせてくれるはずである。